

⑤震度5強という強い体験の中から今後の課題は。

町災害対策本部設置以降の体制の在り方等で、今回の地震を教訓として客観的にその課題を明らかにし、今後の安全・安心なまちづくりに取り組みます。

⑥福祉施設を町の避難所とする協定はできているか。

現在町内4施設を福祉避難所として指定し協定の締結をしています。

### ★鳥獣被害防止計画について

①年度別捕獲目標に対する実績は。

イノシシの年間の目標値は750で平成27年度の捕獲数は436、シカの目標値は220で捕獲数は105で、計画の目標値には届いていません。

②実施隊員数の動向と狩猟人口の増大・確保は。

平成27年度が97名で増加傾向にあります。

担い手の確保は、狩猟関係者の口コミや農業者への周知、講習会への積極的参加要請等で、今後も増員を計画しています。

③捕獲対策の概要と対策は。

町内の猟友会の協力のもと、銃器・わな・捕獲柵による捕獲駆除を行っています。

隣接市町村の地域間連携で

広域的な捕獲や集落全体での協力体制の構築をする必要があります。

④町の防止柵設置補助制度の内容は。

名称は有害鳥獣防護柵設置補助金で、町内の耕作農地・ため池・その他農業用施設等に設置する電気柵・トタン・金網・ネット等による防護柵の資材購入のための補助金です。要件は設置延長50m以上、電気柵は2段以上線を張り、感電防止措置を講じます。補助金の額は上限15万円で設置費用の2/3以内です。

⑤国・県の防護柵対策事業の内容は。

国の鳥獣被害防止総合対策交付金事業で補助率は原則1/2。侵入防止柵を地域住民が直営で設置する場合は、資材費のみに対して、定額の補助が受けれます。要件は受益戸数が3戸以上で、費用対効果が一定水準以上であることです。

県は集落ぐるみ農作物鳥獣被害防止対策事業で、期間が平成28年度から30年度まで、補助率は原則1/2。要件は受益戸数が3戸以上、受益面積が3ha以上、集落点検マップの作成などが必要です。

国・県との併用はできません。

### ★計画について

①現在進行形の計画は。

「鏡野町第2次総合計画」や「鏡野町地域防災計画」など15計画です。

②住民と協働で作った計画は。

策定にあたり、委員会等に住民参加が10計画、行政独自で策定したものが5計画です。

③計画形成過程における取組は。

パブリックコメントや関係団体との懇談会、意見聴取などを行っています。

④行政主導で作られた計画は関係住民に説明が必要では。

計画策定後の説明会は従来から行っています。

⑤町の協働は具体的にどのような役割分担か。

行政が経費の一部を提供し、行政では手の届かないところを住民の方々にお願いしたり、一つの事業を連携しながら分担して行っている場合、事業に参画していただいているもの等があります。

⑥計画ごとの説明会を開催すべきでは。

予定はありません。

⑦「かがみの創生総合戦略」と「鏡野町第2次総合計画」を町民にとって「心から良かった」と思えるような計画実現はどのように取り組んでいくか。

設定した目標に向けて、町民の皆さんと協働し、着実に対策を進めていくことが重要と考えます。

### ★今後の教育環境について

①小中一貫校の実現を目指して調査・研究・勉強会をすべきでは。

保育園・幼稚園の就学前から小学校・中学校までの子どもを育ちを連携して行うため、鏡野町教育研修会、生徒指導推進連絡協議会などの組織により、保・幼・小・中の連携教育をすでに実施しています。

②給食の無料化、必需品の供給、修学旅行費の費用免除を。

経済的理由で就学が困難と認められる世帯に、就学援助制度で学用品・校外活動費・修学旅行費の実費・学校給食費・医療費の援助を行っています。

無料化にした場合、小・中学校で約1億6千万円程度の予算が必要となります。

③グッズリサイクルの仕組みができれば良いと思うが。

希望が多数あれば、学校またはPTA等で行う検討は可能かと考えます。

### ★今後の高齢者福祉について

①人口構造に適した社会づくりをどう考えているか。

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる支援を充実させていく体制づくりが必要で、鏡野町版の地域包括ケアシステムの構築に向けて協議を重ねているところです。

②現在の福祉政策がどうなっているか話し合う場が必要と思うが。

公会堂、コミュニティハウスなどの生活範囲で、住みやすい地域となるよう、身近な地域のことや課題を話したり、考えたりする、小地域ケア会議（通称おたがいさま会議）が開催できるよう、鏡野町社会福祉協議会が中心で広めているところです。

③人間関係が希薄になりつつある社会に対応すべきでは。

住む家や管理者や誰がコーディネートするかなど想定される課題を解決するに当たっては、民間主導で取り組むのが良いと考えます。

お互い様の関係を大切にし、支援が必要な人や地域の困りごとを話し合う体制を築きたいと考えます。

### ★川を活かした地域振興について

①奥津湖の周回道路ができれば魅力が高まるが。

苦田ダムの構造上、実現困難ですが、県が策定した「岡山県サイクリングロード」、